

同和問題について考える

研修を進めるにあたって

近年インターネット掲示板等で同和問題に関する差別的な内容の書き込みが増加している。こうした書き込みから子どもたちが誤った情報を得て、正しい理解をしないまま同和問題に関わっている現状がある。今後、教職員が差別書き込みを見た子どもたちから、相談を受けたり、意見を求められたりすることが考えられる。このような現実を踏まえ、教職員が同和問題に関する研修を深め、教職員一体となった取り組みを推進することが必要である。

活動1. 「同和問題との出会い」を語り合う

ねらい 自分や同じ職場の教職員が、どのような経緯で同和問題に出会い、その時どのように感じたかを交流し合うとともに、同和問題と自分との関わりを振り返る。

(1) 用紙に自分と同和問題との出会いを記入する。

- ・ワークシートとして「出会いシート」を用意する。

出会いシートの内容

同和問題といつ出会ったか どこで出会ったか だれから知ったか

どんな内容を知ったか 初めて同和問題に出会って思ったこと、感じたこと

(2) 「どのように知ったか」についてアクティビティ「4つのコーナー」を行い、みんなですべての傾向をつかむ。

- ・アイスブレイキングも兼ねて行う。
- ・アクティビティ「4つのコーナー」

例：「いつ知ったか」について、部屋の四隅に「小学校まで」「中学校」「高校・短大・大学」「社会人になってから」の四つの表示をし、進行役の指示で一斉に該当する場所へ移動する。その後、同じコーナーに集まった者同士で、「どこで」「だれから」について交流し合う。集まった人数が大きく異なる場合、進行役が各コーナーの人に質問していく方法も考えられる。

(3) 新たなグループに分かれ、どんな出会いだったか、内容・思いを中心に交流し合う。

- ・「4つのコーナー」とは別のグループを事前に無作為につくっておく。
- ・「4つのコーナー」で行った「いつ」「どこで」「だれから」については、簡潔に紹介し、内容や思いを中心に交流する。

(4) 現在の自分と同和問題との関わりを振り返り、今後の自分のあり方について話し合い、今後に生かす。

- ・出会いシートに研修の振り返りの項目を挙げ、話し合いにいかす。
- ・話し合いの中で出てくる同和問題の現状の理解については、啓発冊子「こころのいずみへ」の活用、本研修「活動2」の実施により深めることが考えられる。

活動2.「そっとしておけば差別はなくなる？」

ねらい 「同和問題は口に出さず、そっとしておく」ことは、結果的に差別を温存させていることを認識し、差別をなくすために必要な行動化につなげていく。

(1) グループに分かれて話し合う。

県民意識調査(平成18年度)の結果について話し合う。
「同和問題は口に出さず、そっとしておく」ことについて意見を出し合う。
同和問題の現状を考える。

(2) 「同和問題を解決するためにやるべきこと」を考え話し合う。

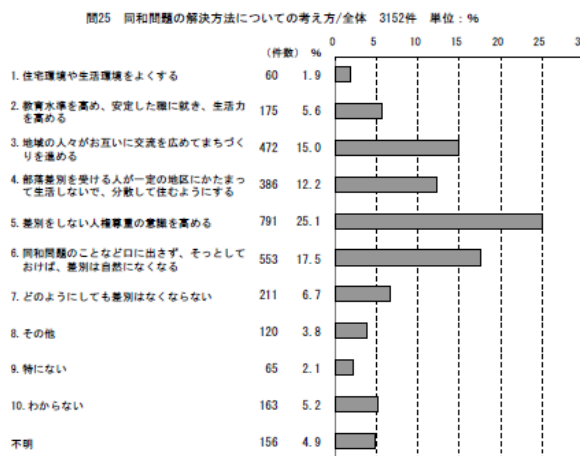
参考資料

- ・「人権に関する県民意識調査報告書・概要版」
- ・「こころのいずみへ」(滋賀県)ワークシートの活用

【参考資料：人権に関する県民意識調査 より】

⑤同和問題の解決方法についての考え方

問25 問21で、「1. 知っている」とお答えになった方におうかがいします。同和問題を解決するためには、特にどのような取り組みが必要だと思いますか。あなたの思いに近いものに1つだけ○をつけてください。



【参考資料：こころのいずみへ より】

I そっとしておけば自然になくなるという考え方について

平成18年(2006年)度の県民意識調査によれば、「同和問題を解決するために必要な取り組み」について「同和問題は口に出さずそっとしておく」という、いわゆる「裏た子を起すな」という考え方が、いまだに2割近くあります。しかし、そっとしておいて同和問題が解決するのなら、同和問題はすでに解決しているはずで、同和問題に限らず、「知らない」ということは誤った情報による偏見を持ちやすいといえます。したがって、正しいことを学び、解決への方向を知ることが大切です。また、誤った理解をしているとしたら、正しく理解をする必要があります。そっとしておくことは、結果的に差別を温存させることになることを認識し、すべての人が同和問題をはじめとするあらゆる人権の課題について正しく学び、解決に向けて行動していくことが大切です。



- 同和問題の解決方法についての考え方については、「差別をしない人権尊重の意識を高める」(25.1%)が最も多く、次いで「同和問題のことなど口に出さず、そっとしておけば、差別は自然になくなる」(17.5%)、「地域の人々がお互いに交流を広めてまちづくりを進める」(15.0%)となっている。「その他」については、調査を実施した時期の関係もあって、同和行政や運動についての批判が多かった。
- また、「同和問題のことなど口に出さず、そっとしておけば、差別は自然になくなる」が17.5%、「部落差別を受ける人が一定の地区にかたまっ生活しないで、分散して住むようにする」が12.2%、「どのようにしても差別はなくなるしない」が6.7%あることは注意が必要がある。

「人権に関する県民意識調査」(滋賀県)

<http://www.pref.shiga.jp/c/jinken/houkokusyo.pdf>

<http://www.pref.shiga.jp/c/jinken/gaiyouban.pdf>

「こころのいずみへ」(滋賀県)

<http://www.pref.shiga.jp/c/jinken/kokoronoizumi/>

